ウクライナ侵攻の現実伝える絵日記展

8月5日(土)～17 日(木)、中央図書館平和資料室

◎平和資料室特別展チラシあり

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が続く中、平和について考えてもらおうと、市は平和資料室特別展「戦争日記　鉛筆１本で描いたウクライナのある家族の日々」パネル展を開催する。「戦争日記」は軍事侵攻の中、地下室での避難生活の様子やウクライナ国外へ逃れる過程をウクライナ人の絵本作家が絵と文章で綴ったもので、日本では昨年９月に書籍化された（河出書房新社刊）。特別展では、書籍の中から厳選した絵日記のパネル 25 点を展示。人権政策室の担当者は「世界に衝撃を与え、今なお続いている軍事侵攻の中での人々の生活や思いがとても伝わる日記。戦争は昔の話ではなく、今も起こっているという現状を見つめて、平和の尊さについて考える機会にしてほしい」と力を込める。

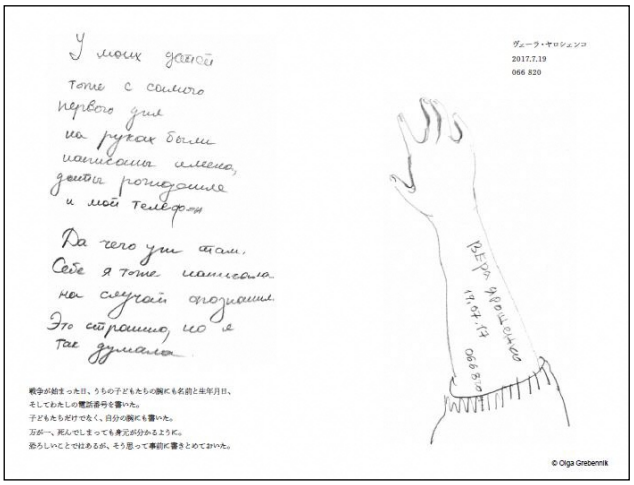
★「戦争日記　鉛筆１本で描いたウクライナのある家族の日々」パネル展

期間など　８月５日（土）～17 日（木）午前９時 30 分～午後７時（金曜休館、土・日曜・最終日は午後５時まで）、中央図書館１階平和資料室。

入場無料。点訳資料あり。当日直接会場へ。

★今回展示されるパネルは「戦争日記 鉛筆１本で描いたウクライナのある家族の日々」（河出書房新社刊）の中から、絵と日記をパネルにしたもの。日記はロシアによるウクライナ侵攻前夜から始まる。著者とその家族が体験した、地下室での避難生活やウクライナ国外へ逃れる過程が絵と文章で綴られている。

日記の書籍化においては、現在のウクライナでは正常な出版が困難なため、写真データとして著者から送付された日記を韓国語に翻訳して出版。日本語版は令和４年（2022 年）９月に韓国語版からの翻訳で出版された。



戦争が始まった日、うちの子どもたちの腕にも名前と生年月日、そしてわたしの電話番号を書いた。子どもたちだけでなく、自分の腕にも書いた。万が一、死んでしまっても身元が分かるように。恐ろしいことではあるが、そう思って事前に書きとめておいた。

避難生活によりパソコンを使った作業が難しかった著者は、普段のような繊細で鮮やかな画風の代わりに鉛筆によるラフな線だけで絵を描かなければならず、現場の生々しさが伝わる日記となっている。

★【著者紹介】

オリガ・グレベンニク　Olga Grebennik

1986 年、ウクライナのハリコフ（ハルキウ）生まれ。大学では建築学を専攻し､現在は絵本作家､イラストレーター、アーティストとして活動している。９歳の息子と４歳の娘の母（令和４年４月現在)。『ママ、怒らないで』などの絵本を出版。彼女が挿絵を描いた本はすべてベストセラーになり、イラスト作品も世界各国で人気を博す。

★平和資料室特別展では、【私たちはどう生きるか～平和の実現に向け～】と題し、枚方市立禁野小学校６年生が禁野火薬庫の爆発や枚方の戦争の歴史について学び作成した「平和のレポート」も展示する。

★会場には「ウクライナ人道危機救援金」募金箱を設置する。集まった募金は日本赤十字社を通じて、ウクライナでの人道危機対応・復興支援・ウクライナからの避難民を受け入れる周辺国とその他の国々における救援活動に役立てられる。

★会場の「平和資料室」は、戦争の体験や記憶を風化させることなく、平和の尊さを次世代に伝えていくため、枚方市立中央図書館１階に開設。昭和 14 年（1939 年）３月１日の禁野火薬庫大爆発のパネルや戦争遺物などを平成 18 年(2006 年)から展示しており、毎年夏に特別展を開催している。

★市は、今回の平和資料室特別展をＰＲするため、７月 19 日から市役所別館１階でミニパネル展を開催する。８月 17 日までの期間、平和資料室特別展で展示する日記の簡易パネル８点を展示している。

▲市役所別館１階ミニパネル展の様子

【関連事業】

平和資料室特別展会期中、中央図書館では夏季平和事業として、８月 10 日（木）午後３時～４時に中央図書館美杉会グループエントランスホール（正面玄関ホール）で、平和をテーマにしたサックスアンサンブルによる「平和ライブラリーコンサート」を開催する。

＜お問い合わせ＞
市長公室 人権政策室　☎：072-841-1259　FAX：072-841-1700
メール：jinken@city.hirakata.osaka.jp